

北信濃の里山を保全活用する会

第1回オオルリシジミ観察会

信州の草原を代表する蝶であったオオルリシジミ・・・・・・・・

人の生活様式の変化による草原環境の消失、食草・クララの減少や、農薬の過剰散布、乱獲採集などが原因して、本州では1990年代に絶滅に近い状態になってしまいました。

一部地域で野生復活の取り組みが行われてきましたが、2004年、当地で奇跡的に本種の生息が発見されました。

これまでは有志で保護活動を行ってきましたが、昨年は発生量の減少が見られ、採集者の影響が懸念されましたので生息を公表し、地域に根ざした組織的な活動を進めていきたいと考えます。

今回の観察会に際し、オオルリシジミが舞う草原・里山環境を維持保全するため、その保護活動に対して御理解と御協力をお願いします。



※観察会内容

日時：平成23年6月11日（土）8：30～12：00

場所：飯山市公民館集合・現地生息場所

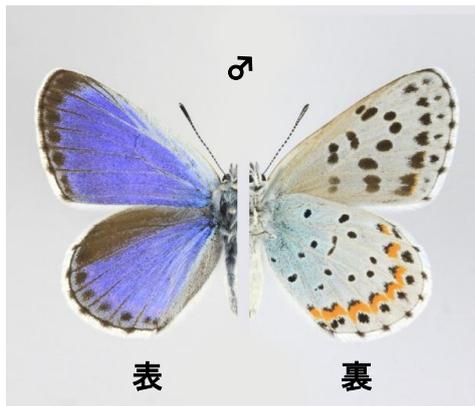
日程：

- 8：30 飯山市公民館駐車場集合、受付
- 8：40 あいさつ・日程説明
- 8：45 公民館出発
- 9：00 現地着、概況説明
- 9：10 モニタリングルート巡回による観察
- 11：10 集合・観察結果報告
- 11：15 現地出発
- 11：30 オオルリシジミ飼育法説明
- 12：00 解散



オオルリシジミとその生態

- シジミチョウの仲間が開長（翅幅）約3.8cm、翅の表面は明るいイリリ色で外縁に黒帯があり、メスには翅中央に数個の黒点がある。裏面は灰白色で多数の黒点と後翅外側に朱色の帯がある。



- 田園から里山の開けた草地・草原に生息する。幼虫の食草・クララ（マメ科）に依存する。
- 成虫は年1回、5月下旬から6月に発生。メスは交尾後、クララの花穂に産卵する。
- 幼虫はクララの蕾や花を食し、アリと共生しながら約1ヶ月（6月～7月）かけて成長する。



- 成長を終えた幼虫は地面に降り、土石の隙間などにもぐりこんで蛹になり、そのまま越冬する。

オオルリシジミの分布と絶滅の危険性

- かつては東北（青森・岩手）、本州中部（長野・新潟・群馬）、九州（大分・熊本）の3地域に分布。
- 1960年代から各地で生息地の減少、1970年代までには東北各県、群馬県、大分県で絶滅。
- 1980年代、長野県などの主要生息地で激減。
- 1990年代には、本州でほぼ野生絶滅？ 九州阿蘇山系で減少しながらも生息（地元で保護活動）。
- 2000年代には東御市、安曇野市で地元の飼育系統から野生復活の取り組みが行われる。
- 2004年に飯山市内で野生個体群の生息地を発見、保護活動を展開中。
- 環境省レッドデータでは絶滅危惧Ⅰ類に分類、長野県希少野生動植物保護条例指定種。（無許可での採集禁止）

オオルリシジミ保護活動と里山保全活用に向けて

- 飯山個体群維持と増殖：飼育による系統維持、増殖による周辺類似環境への放飼
- 生息環境の整備：食草のクララの繁殖、植栽灌木除去と草原の維持
- 違法採集者に対する対応：パトロールの実施、立て看板の設置等
- 調査研究の継続：発生量のモニタリング観察、形態や生態、天敵類の調査など

※ オオルリシジミをシンボルとした自然保護による地域づくり、北信濃の魅力発信を・・・。

※ 「北信濃の里山保全活用する会」会員募集中！ 一緒に活動してみませんか・・・？